

# 平成30年度上半期 財政の状況

30年度上半期30年4月1日～9月30日(の歳入・歳出予算の執行状況などをお知らせします。  
市の会計は、一般会計、特別会計、企業会計に分かれています。数値はすべて30年9月30日現在のものです。

## 一般会計

一般会計は、市税を主な財源とし、福祉、教育、小・中学校や公共施設の維持・管理、道路整備、ごみ処理など、行政を運営する経費の大部分を賄う会計です。

30年度の予算現額(年度当初の予算額に修正予算額などを加減したもの)は44億2022万円です。執行状況は図1のとおり、歳入では収入率が46.4%、歳出では執行率が35.0%です。

## 積立基金(貯金)、市債(借金)、市有財産

積立基金(貯金)は表1、市債(借金)は表2、市有財産は図2のとおりです。

### 市税負担、市民サービスなど

市民の皆さんが納めた市民税や固定資産税などの市税負担額、市民サービス費用(※)、貯金の金額は、図3のとおりです。

※市民サービス費用は市が行うサービスにかかる費用のことです。市税や国・都からの支出金などが財源

表1 積立基金(貯金)

	現在高
一般会計	39億9071万円
特別会計	66億2149万円
合計	32億3587万円

※財政調整基金=財源の不足に備えるための基金(家計でいう貯金など)  
※特定目的基金=公共施設整備など特定の目的のための基金(家計でいう住宅購入資金積立など)

表2 市債(借金)

	現在高 (元金の残高)
一般会計	92億9308万円
特別会計	109億8331万円
下水道事業会計	48億5078万円
合計	251億2717万円

※建設事業債=学校、道路、公園などの公共施設の整備・改修のための借入金  
※赤字地方債=財源の不足を補うための借入金

## 特別会計

特別会計は、特定の事業を行う場合に、その運営や経理を明確にするため、一般会計から分離して収支を管理している会計です。

各会計の予算現額と歳入・歳出予算の執行状況は、表3のとおりです。

## 企業会計(水道事業)

水道事業会計は、複式簿記(※)による「公営企業会計」で収支を管理しています。また、必要経費のほとんどを料金収入で賄う独立企業です。事業の経営状況は、図4～6のとおりです。

※複式簿記は二つの取り引きを原因と結果の二面から記録する会計方法

以上が30年度上半期の財政の状況です。

市税収入の大幅な増加が見えない一方、児童福祉費などの支出が増加しているため、財源不足が見込まれています。これを補うため、普通交付税(地方自治体間の財政不均衡を改めるために国から交付されるお金)が4億5304万円交付されることとが決定しました。

市の財政は非常に厳しい状況にあります。今後も市民サービスの維持・向上のため、限られた財源を有効に活用し、適正な予算執行に努めます。  
☆詳しくは、一般会計・特別会計は財政課、水道事業会計は水道部業務課 ☎5436111へ。

表3 30年度特別会計 歳入・歳出予算の執行状況

会計名	予算現額	収入済額(収入率)	支出済額(執行率)
国民健康保険	120億9784万円	48億3403万円(40.0%)	42億6321万円(35.2%)
介護保険	90億9796万円	35億902万円(38.6%)	35億4107万円(38.9%)
後期高齢者医療	23億6670万円	9億8560万円(41.6%)	7億7069万円(32.6%)
下水道事業	33億3621万円	11億5858万円(34.7%)	13億8882万円(41.6%)
中神土地区画整理事業	3億9284万円	1億468万円(26.6%)	1億6669万円(42.4%)
合計	272億9155万円	105億9191万円(38.8%)	101億3048万円(37.1%)

図4 給水人口と配水状況

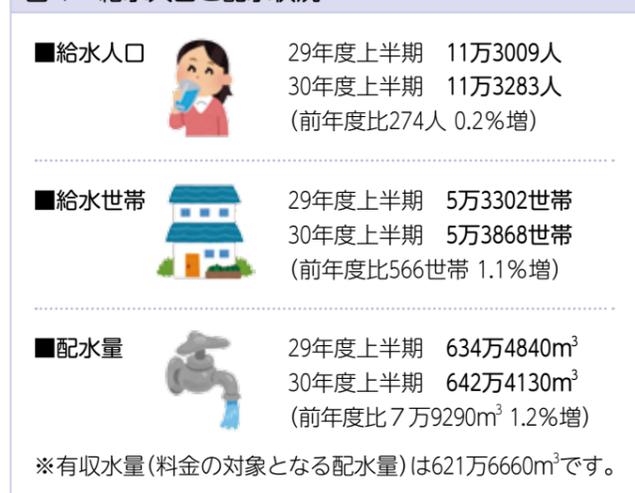


図5 企業債(借入金)の推移

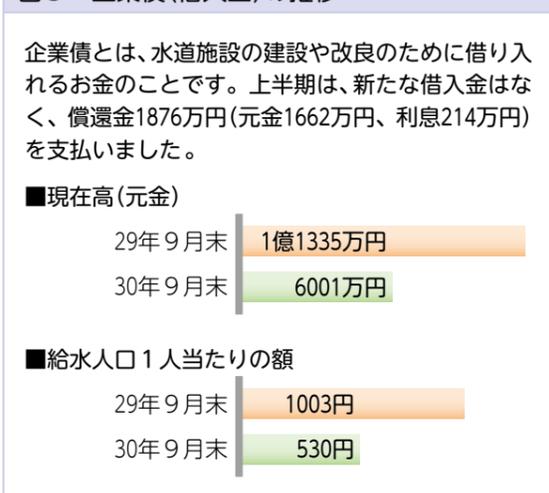


図6 経理の状況(消費税抜き)

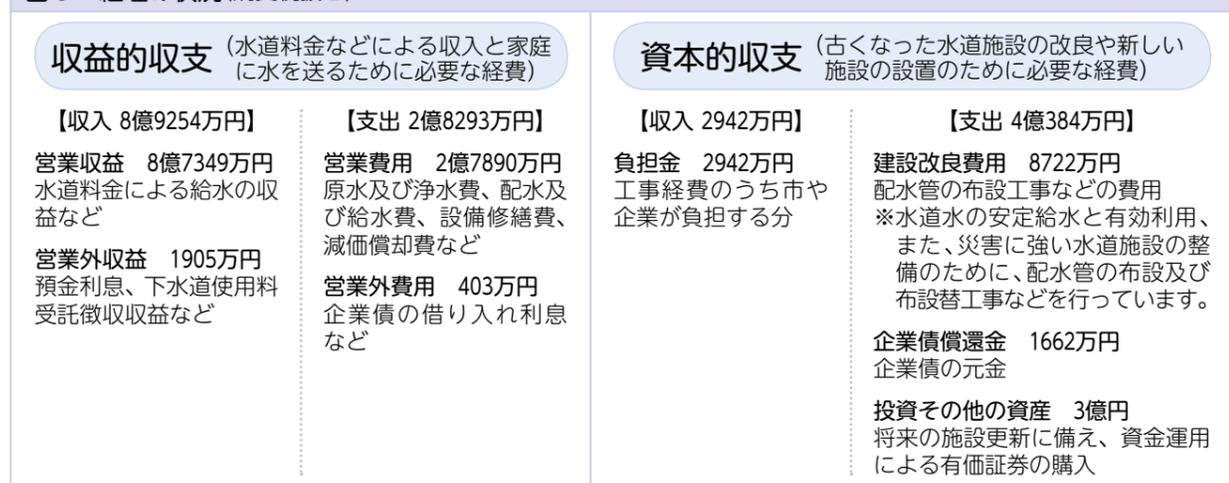


図1 30年度一般会計 予算の執行状況

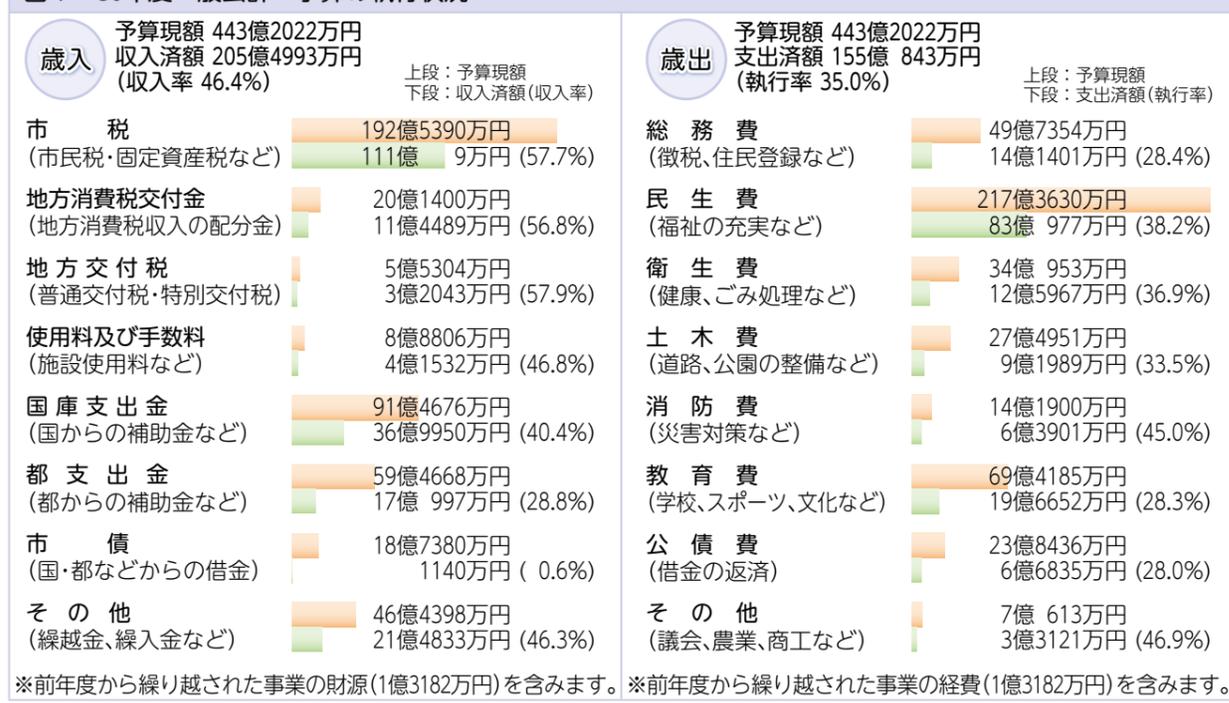


図2 市有財産



図3 市民1人当たり・1世帯当たりの市税負担額、市民サービス費用、貯金、借金

